

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <https://www.r-keizaijin.net/>

第39回定期総会



2019年6月5日午後5時30分より、毎年恒例となる「立教経済人クラブ第39回定期総会」が日比谷松本楼にて開催されました。総会は第1部の定期総会、第2部の講演会、第3部の懇親会と三部構成で行われました。第1部の定期総会は総務委員長品川高穂氏(H8経)が司会者となり開会を宣言し、会則により議長に会長である大塚裕司氏(S51営)が指名され議事の審議に入りました。

1号議案の事業報告、3号議案の事業計画案は井口一世事務局長(S53営)より、2号議案の決算報告、4号議案の予算案は飯泉斉財務委員長(H10法)より、監査報告を岩田護監査委員(S56営)よりそれぞれ報告され、全ての議案について満場一致で承認され、無事総会が閉会しました。

引き続き午後6時より、第2部の講演会が開催されました。今回は和田成史(株)オービックビジネスコンサルタント代表取締役社長より「夢を追いかけて」と題して、和田会長自身の起業の背景や、会社経営における3つの壁(ヒト・モノ・カネ、景気変動、テクノロジー)、ご自身の経営理念やこれまでの人材育成、経営戦略などの実体験をご講演して頂きました。

午後7時からは第3部となる懇親会です。会員、ゲスト、来賓を併せ100名を超える参加者となりました。品川総務委員長の司会で開宴となりました。まず大塚会長より開宴の挨拶として、総会が無事に終了した報告とお礼ののち、講演会で和田校友会会長が話された内容を取り上げ、夢を持って頑張るという重要性に感銘を受けた。経営者としてこれまで走って来た中で、私にとって立教という存

在はちょっと一呼吸おける存在であり、経済人クラブという場所もそういうオアシスのような場所でありたい、とご挨拶されました。

続いて立教学院の白石典義理事長より、和田校友会会長も、大塚会長も話した内容は別のものであるが、話の端々に立教で教育を受けたことが自分の生活や仕事に影響を与えている、と感じることができ、立教学院の理事長として本当に嬉しく思うし、それがまた立教の伝統であると考えている。立教経済人クラブの方々それぞれの立場で、各方面のリーダーとして活躍されていると思うが、立教らしいビジネスパーソンとして各界を引っ張ってほしいと願う。立教大学は昨年築地から池袋に移転し100年が経ち、創立150周年に向けての様々な活動が始まっている。募金活動も引き続きご協力をお願いすることになるが、皆様から集めたお金の用途を開示し、貢献していただいた方は、本館の2階にお名前を彫って掲出します。今後とも皆様方の益々のご繁栄、立教スピリットを活かしていただければこんなに嬉しいことはない。今日は総会誠におめでとうございます、とご挨拶いただきました。

その後、立教大学郭洋春総長より、立教経済人クラブとは20年来のお付き合いであり、今日私が立教大学のスピリットに触れることができたのは、経済人クラブとの交流があったからからである。39年という歴史の中で、現在大学の校友会の中でも影響力があり、活動力があり、社会的な責任も大きな組織になっている。それは歴代の会長のお力であり、会員の皆様方の努力であると思う。来る2024年、

創立150年に向け、今よりも栄光輝く立教大学を作るべく、教職員、学生一同努力していきたい。そのためにも20万を超える校友の方々の様々な知恵、協力を賜われればと考えている。立教大学は卒業生だけでなく、そこに関わったすべての方々をファミリーとして迎え入れるといった寛容さと懐の広さが必要でないと考えている。そのためにも大塚会長の下、経済人クラブが益々の繁栄を遂げていただくことを祈念し、本日は総会誠におめでとうございます、とご挨拶されました。

その後、ご来賓の方々のご紹介を司会者よりさせていただき、新春名刺交換会以降に入会された6名の新入会員の紹介と記念撮影を行った後、和田成史校友会会長より乾杯のご発声を頂き懇親会がスタートしました。松本楼の美味しい食事とお酒に加えて、同友、先輩、後輩等様々なつながりに会場各所で大いに話が盛り上がり、会員同士が起業した頃の話、夢を持った将来の話など、情報交換に華が咲いておりました。

最後に、梅田憲司顧問(S50経)に本日106名と大勢の方がお集まりの中、今年も総会で事業計画等承認されたので、井口事務局長をはじめ運営委員会の皆様に頑張っていたいでこの計画を実行しつつ、我々はいかに参加していくか、多くの方々に参加していただいで経済人クラブを活性化していければと思っていると、ご挨拶と、中締めをしていただいた後に、来年の40周年記念イベントの実行委員長に、昆凡子理事(S54仏)が就任することを大塚会長に発表していただき、閉会となりました。
—松原 伸禎 H12史—

第39回定期総会講演会

「夢を追いかけて」



講師：株式会社オービックビジネスコンサルタント
代表取締役社長 和田 成史

定期総会に続き、講演会の部が開催されました。今回は立教大学校友会会長の和田成史様にお越しいただき、「夢を追いかけて」と題し、株式会社オービックビジネスコンサルタント代表取締役社長でもある和田様のビジネスマンとしての一面をご講演いただきました。

○今日は「夢を追いかけて」という演題にしましたが、「手作り会社」にするか「夢を追いかけて」にするか迷いました。少年時代から縁あって立教に入学し、今日まで紆余曲折ありながら会社を運営してきましたが、今こそ新しい場、夢を追いかけるには良いチャンスではないかということで、このテーマでお話させていただきます。

■何事にも伸びやかに全力投球した学生時代

時は昭和30年頃、事業家の祖父が品川駅の近くで「和田家薪店」という燃料の小売問屋を営んでいました。故郷の青森から薪や練炭を仕入れ、父が二代目を継いで祖父と二人で商売をしていたので、大勢の人が出入りする環境で育ちました。

ある意味、常にビジネスの仕事に触れている環境に身を置いていたと思います。小学生の頃から世の中が変わり始め、まさに『三丁目の夕日』の世界です。家電製品が次々と出てきて、東京オリンピックを期に一気に日本の経済の流れが変わるという体感をしました。実家の家業への影響が出てきており、業態を変えていくにはどうしたらいいかという、仕事に対する親の対応を見ながら社会の変化を肌で感じていました。

そんな中、次男の私は何事も自由にやらせてもらい、勉強は二の次で、スポーツ、中でも野球に熱中していました。小学校から帰るとランドセルを玄関に放り出して、遊びに出かけたものです。それがあることを契機に、猛烈な勉強生活へと一転したのです。ちょうど4年生になったばかりの頃です。

野球部の仲間と遊んでいた時、仲間の一人のお母さんがやって来て、「あの子と一緒にいたら、勉強できなくなっちゃうよ、遊んでじゃだめでしょ」と言われたのです。実際に成績がクラスの43人中42番だった私は大変なショックを受け、涙を流して家に帰って母親に「僕、勉強するよ」と宣言したのを覚えています。

こうして勉強を始めた私は、当時兄が通っていた立教に行きたいと思い始めました。立教との出会いというのはここから始まったのです。猛勉強の末に立教中学に入学し、素晴らしい先生方と出会うことができました。この出会いが自分にとって大きな転換期であったのだと思います。

立教の良さは、人を大切にすることです。先生方との出会いや、勉強、スポーツについてもバランスの取れた素晴らしい教育を受けさせていただいたと思っています。

大学に進学し、経済学部経営学科で学ばせていただき、当時の指導教授であった品田誠平先生との出会いの中で、公認会計士という資格と出会うことができました。当時はオイルショックの最中で、内定取り消しなどが頻繁に起きた時期で、学生の就職が大変厳しく、ほとんど求人がありませんでした。私はちょうど会計士の勉強をしていたので、このまま資格を取ろうと勉強し、運良く卒業時に取得することができました。

■「三足のわらじ」で猛烈に働き、会社設立。そして見つけた使命

当時の私は色々な事に挑戦しました。会計士補の時期は、一般的に当時あった第三次試験に向け、監査法人で実務補修や研修を積むのが常でしたが、まだ将来を定めていなかった私は、会計専門学校にて同じように会計士を目指す学生への受験指導を行う傍ら、自動車部品メーカーでシステム系のコンサルティングを行い、そしてアルバイト的に監査業務を行っていました。いずれも声がかかりがあったのですが、結果として「三足のわらじ」を履いたのです。

その中で私が興味を持ったのが、システムのコンサルです。当時、会計作業は手書きがほとんどで、これをシステム化するとした場合およそ1500万円はかかっていました。それを当時まだ出始めのPC8000やアップルなどのパソコンを利用してシステム化することができれば、システム化が100万円以内で実現し、世の中が変わるのではと考えたのです。

たまたま家の隣に住んでいた東大の先生から「これから世の中は変わるよ。オフコンがなくなつてパソコンの時代になる」と聞いていたこともあ

り、ひらめきました。

ここで会計ソフトを作ろうと考えるきっかけになったのです。

それでは会社を作ろうと思い、システムの会社を作り、コンサルタントをやっている時に株式会社オービックの野田会長と出会い、オービックビジネスコンサルタントという会社を作りました。

会社を作った後に直面したのは資金の問題です。設立資金は500万しかない中、ソフトを作るには1億円程度かかるのではと試算していました。そのお金をどう集めるかと思案しました。人間というのは、追い詰められてからこそ、そこから試練を乗り越えることができるものです。

会社を設立してまずやったことは、秋葉原のソフト売り場を散策しに行ったことです。何か良いアイデアはないかと思ったからです。ぱっと見た瞬間、2万円のソフトが目に入りました。そのソフトを買って操作してみると、「ビジュアル」というアメリカで非常に売れている計算ソフトの発想に近いと気づいたのです。私はこれに着目し、会社社用版を作ろうという考えに至りました。会社が会計処理の際に使う集計表に関連して、色々と使えるソフトを作ってみようと思ったのです。

隣人の東大の先生の紹介で優秀な大学院生をアルバイトで集め、早速開発に取り掛かりました。私が思い描いたコンセプトや設計を説明し、指示をしながら開発は進み、かくしてソフトは2ヶ月程度で完成しました。

このソフトを販売した資金で本丸の会計ソフトを作ろうと考えていたので、できるだけ高く売るために思案したところ、知り合いの雑誌記者にソフトを開発したことを伝えました。当時はパソコンが大人気で、これを記事にすれば部数も伸びるだろうと提案してみたのです。狙い通り記者はこの提案に飛びつきました。

専門家やPCメーカーを訪問して裏付けを取り、「誰でも使える」という刺激的なキャッチコピーで雑誌に掲載され、このソフトの第一号を以前から興味を持ってもらっていた電機メーカーに売り込みました。販売額は8600万円。これで以降の開発費用を調達することができました。

このお金を元手とし、さらに集めた友人や東大生たちとともに、本格的なソフト開発に入りました。そして83年に販売開始したのが財務会計ソフト「TOPシリーズ」。奉行シリーズの前身です。受注生産で高価だったソフトを数十万円で買えるようにできれば、世の中に大きく貢献できる。夢を抱いて走ってきた一つの成果でした。

■揺るぎない経営理念のもと、世界を視野に確かな歩を進める

TOPシリーズのヒットによって、オービックビジネスコンサルタントの名前は広く認知され、事業は順調に推移し、80年代半ばには社員数も三桁に届く勢いとなりました。しかしこの頃、私は大きな壁に突き当たっていたのです。例えば開発部門と営業部門の意識の乖離、人材それぞれの業務に対する価値観の相違など、組織としての成長が追いついていなかったのです。

人材の大半が中途採用だったこともあり、多くは、個々のスキルやキャリアアップを目指しているわけです。それぞれ持っている文化や価値観も異なり、単なる集団の域を超えていなかったのです。これ以上は無理、会社の限界が来ると感じていました。この限界を認識することが大切で、そこから人間は、乗り越えるにはどうすれば良いかを必死に考えるようになるのです。

そして、解決策を探し求めて出会ったのが、当事者意識研修で著名な武島一鶴先生でした。組織改革について先生の助言を受けながら、オービックビジネスコンサルタントの経営理念、コアコンピタンス、人材採用・教育といった企業としての柱を作っていました。そこで構築した経営理念が「オープン、フェア、グローバル」です。ここに立ち、私が経営者としてビジョンを打ち出して全社員に向けて走っていく、四年間ほどは採用

と教育を中心とした組織づくりに全力投球しました。開発においても、それまで縦割りだった体制をレイヤー制に転換し、オービックビジネスコンサルタントのものづくりの本質は何なのか、顧客満足度とは何なのか、きっちり共有したのです。それによって働いている人材一人一人が違う意味合いだった言葉が一つの言葉に生まれ変わり、一つの言葉が集団から組織に変わったことで、多くの社員を受け入れられるしっかりとした会社組織に変わっていったのです。この時期の苦しみは、私自身、経営者としての「目覚め」でもありました。

その後もITバブルとその崩壊、リーマンショックと壁は訪れましたが、経営理念の原点に立ち、何が本質かを腹に落ちるまで考えてビジョンを導き出せば、必ずすべて解決できると考えています。企業は試練を乗り越え、成長し、変化していきます。まさに組織は生き物のようです。社会で生き続けるということは、「変化する」能力が重要で、当社も「勘定奉行」という名前を取り入れ、大きく変革していくことができました。

■「夢を追いかけて」テクノロジーの変革によって生み出されるビジネスチャンス

テクノロジーの変革によって、これからはまさに変革する時代だと思います。ビジネスチャンス、起業するチャンスはたくさんあると思います。それはテクノロジーが変わることによって、例えば

自動車の自動運転技術の開発、農業や医療へのAI活用やドローンの登場など、テクノロジーの変革があって、社会の仕組みと構造が大きく変わろうとしている時代です。これまで筐体一つであったサーバーが、クラウドと呼ばれる仮想化技術によってリンクし、巨大なサーバーが構築されるようになりました。そのサーバーに収納されたビックデータがAIを生み出します。

これらのテクノロジーは生まれたばかりで、伸びる余地は大いにあります。つまり、まだやりきれていない部分が残されているということ、これからの産業構造の伸びしろが存在するという事です。経済がいつ失速するかという危機感もありますが、実は意外に経済が長持ちしているというのは、これらの変革を遂行していくために、新しいビジネスが生まれているからではないでしょうか。

既存ビジネスの多くがインターネットを通じてネットにつながる社会です。新しい社会構造を変えていくという発想で考えることで、こうしたビジネスチャンスを見つけることができるはずです。私も時代の変化に対応しながら、クラウド戦略、グローバル戦略と、新しい展開を考えています。皆さんにも是非夢と勇気を持って、新しい道を探し求めてほしいと思います。

—松原 伸禎 H12史—

伊藤 守氏 株式会社毎日コムネット 東証一部上場をお祝いする会

2019年4月5日19:00よりホテルメトロポリタンにてお祝いの会が催されました。立教大学観光学部1974年卒の伊藤守氏が立ち上げた株式会社毎日コムネットが東証一部銘柄に指定されたためです。伊藤様は立教関連のクラブへも活動的に参加されており、不動産立教SB会会長・立教観光クラブ相談役・立教経済人クラブ副会長を兼任しており、今回は3会合同の開催となりました。各クラブから多くの方がお祝いに駆けつけ、91名の出席ながらも終始和やかな雰囲気で行われました。

まず、発起人代表挨拶として和田成史立教大学校友会会長より祝辞があり、少数精鋭の立教において同じく創業から上場まで道を歩んでいる伊藤様とのお互いの存在の大きさや交流のお話と共に、この様に社会的に活躍する事によって立教の知名度や地位が上がる事も喜ばしいと述べられておりました。続いて立教観光クラブ会長藤崎斉様、不動産立教SB会副会長北岡修一様より祝辞が述べられ、伊藤様がクラブの発足に尽力したこと、8年間もの長い間会長をして頂いていたなど、事業

のみならず校友クラブの活動でも中心となって活躍されてきたことに感謝の意をお伝えしました。

立教大学より来賓として参加して下さった郭洋春総長よりご挨拶を頂き、経済人クラブ最高顧問戸井田和彦様の乾杯で歓談となりました。

各10名程度の円卓を9卓、各団体ごとに着席。バイキング形式での食事となりましたが、それぞれ思い思いに伊藤様や他テーブルに挨拶に行くなど活気ある交流の場となりました。食事も魚・ステーキ・ビーフシチュー・パエリア・そばなど幅広く用意して頂き、ワインなどとともに美味しく頂きました。宴もたけなわの中、各テーブルより2名ずつお祝いの言葉を頂き、それぞれ伊藤様に対する祝辞・思い出やエピソード・これからの目標などを述べておりました。若手などは緊張しながらものびのびと話をし、交流の深い人は伊藤様の過去などでいじったり、1人2-3分の持ち時間を大幅にオーバーしてでもお話ししたい方もいらっしゃいました。人に好かれる伊藤様の人柄が会の和やかさとスピーチにとっても表れ



ていました。

花束・記念品の贈呈、伊藤様からのお礼の言葉、立教大学応援団によるエール、不動産立教SB会副会長小林幸孝様による中締め、全員での写真撮影をもってお開きとなりました。伊藤様のお礼の言葉ではご自身の体験から人生なりゆき、縁の大切さ、信条である高杉晋作の「おもしろきこともなき世をおもしろく」のお話が印象的でした。8,464,649円(ハシロウヨロシク)の立教箱根駅伝への応援もその一つなのだと感じました。当日もとても良い雰囲気でお祝いの会を楽しむことが出来ました。幹事の皆様、本当にお疲れ様でした。

—中島 佳隆 H12営—

建学の精神をたづねて

キリスト教とCOFFEEと東京オリンピック!?

神保町シンクタンク 黒田裕治 (1978年3月 法学部卒)

皆さんは「立教観光クラブ」をご存知だと思いますが、当「立教経済人クラブ」と同様校友会の中でも歴史と陣容を誇るクラブの一つです。(筆者もメンバーの一人です)

そのクラブでは毎年観光業界で顕著な活躍をされたメンバーに「立教観光クラブ賞」を授与しその功績を讃えています。今年を受賞者 上西一男先輩(1956年卒)は長年ハマヤ珈琲、後にUCC上島珈琲株式会社に勤務され、特に1964年の東京オリンピック選手村の運営に参加され、外国人選手たちに最上の珈琲を提供されました。また、ホテル協会 レストラン協会がボランティアで選手村やプレスセンターのレストラン運営に奉仕し、オリンピックの大成功に大いに貢献されました。

折しも来年には2020東京オリンピックが開催されますが、実は日本における珈琲文化(日常に珈琲を飲む習慣が定着すること)が大ブレイクしたきっかけは東京オリンピックだったようです。そもそも、珈琲のルーツはオリエントであり、そしてイスラム教の飲物でした。キリスト教すなわち当時のヨーロッパ文明と出会った時からコーヒー文化は世界に広まっていきました。その出会いのエピソードを紐解きながら明治時代から西洋文明を取り入れて文明開化に突き進んでいった日本の様子をたづねて参ります。

コーヒーのルーツ

コーヒーの起源にはいくつもの言い伝えがあるようですが、その内容は3つに大別されます。その中で一番信ぴょう性のあるのが以下のものです。すなわち、15世紀のアデンで、イスラム律法学者のゲマレディン(ザブハーニー)が体調を崩した時、以前エチオピアを旅したときに知ったコーヒーの効用を確かめ、その後、眠気覚ましとして修道者たちに勧めた。さらに学者や職人、夜に旅する商人へと広まっていった。というものです。何か自然な感じがして、想像するに難しくない説ですね。

ヨーロッパ人の記録の中には、1454年にゲマレディンがコーヒーを認めるファトワー(法解釈)を出したとする伝承が紹介されています。『コーヒーの合理性の擁護』では、ザブハーニーが飲用していた液体はコーヒーではなくカートだとする別の記録が紹介されています。ウィリアム・H・ユーカーズ(William H.Ukers)の著書『オール・アバウト・コーヒー』(1935年)では、信憑性の高い伝承として取り上げられています。

眠気を覚ますという効果と同時に高揚感が得られる不思議な飲み物は大変魅力的ですが、同時に畏敬の念も抱かせるようになったのでしょう。だから合理性の擁護なる書面が必要だったのかもしれませんがね。

他の2説も似たようなエピソードです。1つはイエメンの僧オマール、もう1つは山羊飼いのカルディ。1つは鳥が啄んでいた赤い実、もう一方はヤギが食べてた赤い実。

そう、赤い実こそコーヒーの実だったので。

キリスト教公認

1600年頃、トルコからローマにコーヒーが伝わりました。しかしそれは異端であるイスラム教の飲物。悪魔の飲物として裁判にかけることになり、時の教皇クレメンス8世が味見をしました。すると彼はその味に魅了され、異端として禁止するのは惜しいので改宗させようということになったのです。教皇はコーヒーに洗礼を授け、キリスト教徒の飲物としました。これがヨーロッパにコーヒーが普及するきっかけになったとされています。クレメンス8世はフランスをプロテスタントからカトリックに改宗させたり、地動説を擁護して宇宙の無限を説いたジョルダノ・ブルーノを異端の罪で火刑にしたりと、功績・失策、何かとエピソードのある教皇のようです。現在世界中にライブ中継されるカトリック総本山のミサですが、その第一回目を行った教皇が彼でした。

コーヒーと芸術活動・芸術家・思想家・文壇・サロン等はイメージとして大変よく似合うものという印象がありますね。

ローマ最古のカフェ「アンティコ・カフェ・グレコ」(1760年創立)はバチカン市国からほど近い場所にあり、ゲーテやスタンダール、バイロンなど多くの著名人が集ったことで知られています。=解説:池上英洋(いけがみひでひろ)東京造形大学教授。1967年広島出身。専門はイタリアを中心とした西洋美術史・文化史 参照 =

最初は異端の文化の一つとしてコーヒーを捉えていたようです。キリスト教徒とすればそれを認めることはできなかったのです。ただし、別の説では、布教活動に眠気防止という効果が認められ一部の宣教師の間では使用されていたようです。コーヒーの成分の一つであるカフェインの覚醒作用(注)*中枢神経を興奮させることによる覚醒作用および強心作用、脂肪酸増加作用による呼吸量と熱発

プロフィール

1955年7月4日 広島県尾道市生まれ
立教高等学校 立教大学を経て
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に
加わり
現 神保町シンクタンクを主宰
トラスポヘルスケア販売株式会社創立

生作用による皮下脂肪燃焼効果、脳細動脈収縮作用、利尿作用などである。体重減少作用を確認した研究がある。医薬品にも使われ、眠気、倦怠感に効果があるが、副作用として不眠、めまいなどの症状が現れることもある。(by wiki)で宣教活動もうまくいったのでしょうか。

こうして、洗礼をさせてまで(笑)コーヒーを認めた教皇の功績により コーヒーはその後世界に広まっていきました。イギリスでは、はロンドンのトルコ人貿易商ダニエル・エドワードが、トルコから連れ帰ったパスカ・ロゼにコーヒーをいれさせ、お客にも振る舞っていたところ大評判となり、1652年にコーヒー店をオープンしたのがきっかけでした。異国の飲物であるコーヒーの珍しさと独特の風味にひかれたのでしょうか!これが近代的な喫茶店の誕生と言われています。しかもわずか10年で2000軒のコーヒー店がロンドン市中にオープン。ただし、この頃のコーヒーは依然として煮出して飲むターキッシュ・コーヒータイプでした。一方イタリアでもヴェネチアでは、交易で発展した都市にアラブ人の飲物としてコーヒーが飲まれ始めたのが始まりと言われ、15世紀には徐々にコーヒーを飲む文化が浸透してきました。1720年になると「カフェ・フローリアン」という世界最古のカフェが誕生し、多くの芸術家や政治家、遊び人などありとあらゆる人々が集まって交流する場所になりました。前出の「カフェ・グレコ」ですが、このカフェはその後、デミタスカップを発明したりしてその名を馳せ、今でも伝説のカフェとして営業しています。アメリカでのコーヒーの歴史は1670年代。アメリカ北東部、ニューイングランドにコーヒーが伝わり、アメリカ初のカフェが誕生します。18世紀になるとボストン、ニューヨークにもカフェが立ち並び、アメリカ市民の憩いの場所としてコーヒーが広がります。そして1773年のボストン茶会事件がきっかけで、紅茶の不買運動が起こりアメリカのコーヒー消費量は跳ね

上がったのです。こうして、コーヒーの伝搬を見てみますとどうやら、飲料（食材）というニーズだけではなく、逆にコーヒーはそのきっかけとしての役割があったと考える方が自然なのではないでしょうか？ つまり、喫茶店の役割として、人々が集まり議論を重ねる場所、人と人が出会う場所が求められてきたのではないのでしょうか。貴族でもない、宗教家でもない、王公族でもなく1市民が自由に活動できる拠点として、あるいは新しい芸術活動をするための拠点としてのカフェの誕生です。その後、産業革命が起こり新たな階級、労働者がコーヒー文化の中心となっていきます。（第二次コーヒーブーム）

日本におけるコーヒーの歴史

コーヒーが日本に伝わってきたのは江戸時代の中頃。長崎から入国したオランダ人によってコーヒーは持ち込まれました。しかし、当時の日本人にとってコーヒーの香りと味は「焦げ臭い飲み物」でしかなく、口に合わないものでした。肉など味の濃い食材を食べる西洋の食事とは相性の良いコーヒーですが、野菜を中心とした食生活をおくる日本人の口にはとうてい馴染めるものではありませんでした。面白いところでは、オランダ人医師 シーボルトがコーヒーの薬用効能について勧めた文章も見つかっています。飲用と言うよりお薬として紹介していたのですね！明治時代に入り、日本も文明開化の時代を迎えました。1888年（明治21年）東京に日本で最初のコーヒーのお店ができたのです。その名も「可否茶館」。オーナーの鄭永慶は過去にアメリカに留学していたこともあり、可否茶館をフランスのカフェのように文豪や芸術家が集まる店にしたいと考えていました。しかし、彼の考えは時代に合わず、可否茶館は数年で閉店となります。日本でのコーヒー文化の先駆けは、「パンの会」（コーヒー愛好家の会）です。森鷗外が指導して1909年（明治42年）に創刊された文芸雑誌『スバル』のメンバーである北原白秋、石川啄木、高村光太郎、佐藤春夫、永井荷風などが日本橋小網町の「メイゾン鴻の巣」を利用して毎月会合をもっていたのです。その店は本格的なフランス料理と洋酒を飲ませ、コーヒーも本格的なフランス式の深煎りコーヒーを出していました。メイゾン鴻の巣はさながら文士の社交場だったので。明治時代から大正時代にかけて、このような文化サロンの役割を果たすカフェがいくつかできて、日本にもやっとカフェ文化の風が入ってきました。しかし、いずれもまだまだ一般の人には敷居の高い店ばかりでした。そんなところに来た、『カフェ パウリスタ』は、最初こそ文士や文学青年たちの社交場でしたが、一般の人達が気軽に立ち寄れる値段と雰囲気、あっという間に大繁盛して、大正時代の最盛期には全国に20余りの支店を数

えるほどになりました。では、なぜそれほどパウリスタは一般の人々に人気を呼んだのでしょうか。

それは、高級西洋料理店プランタンのコーヒーが当時15銭だった時に、パリやニューヨークのカフェを模しながら、しかもコーヒーの普及とサービスに徹したパウリスタでは、5銭で飲むことが出来たのです。全国に散らばったパウリスタの店で始めてコーヒーの味を知った日本人の数は数え切れません。パウリスタはコーヒーの大衆化に拍車をかけた店として大きな足跡を残しました。そして大正時代には確実にコーヒー愛好家が増え、昭和に入りますます需要を伸ばしますが、第二次世界大戦でコーヒーは「敵国飲料」として輸入停止になります。日本人の生活から一時期コーヒーは姿を消してしまいます。その後、戦後の昭和25年から輸入が始まり、珈琲は「平和の使者」とばかりに、人々を感激させました。そして迎える東京オリンピック！ 平和の祭典であり、アジア初であり、戦後復興を遂げた日本の世界再デビューでありました。

1964年東京オリンピック

復興を遂げた日本ですが、世界に認められるチャンスとしてこのオリンピックは絶好の機会だったのです。道路整備、競技施設の建設等大変な財政支出（ハードウェア）を行いましたが、政府としては実際の運営（ソフトウェア）に大変困っており、オリンピック組織委員会にとっても参加国93カ国の食事・飲料等を運営するには多大な費用がかかりほとんどお手上げ状態でした。その時当時のホテル協会（犬丸徹三会長）、レストラン協会（小川栄一会長）がボランティアでそれぞれ、選手村とプレスセンターの運営を引き受けることになりました。当然、コーヒーはレストランに不可欠な飲料であり、当時からコーヒー豆は大変高価格なので難儀を極めました。

そこで、我々の大先輩上西さんが動きます！コストダウンを図るため、前回の開催国ローマに飛びます。そこで収集した情報では、開催国イタリアはブラジルの協力を得て、安価で輸入できたとのこと。日本は当時からブラジルとの良好な関係を築いており、早速動いたところ、安価で大量に上質のコーヒー豆をブラジル大使館を通じ、本国からご提供いただきました！それを上西先輩の会社でローストし選手村、プレスセンターに納入することが決定。冒頭にご紹介したように、日本のおもてなしは最高の評価を得ました。

裏話として、当時コーヒーに含まれるカフェインがドーピングの対象成分となっていたため、カフェインの少ないロースト技術を工夫したそうです。

ホテル、レストラン業界に多くの母校の先輩が活躍し、前回の東京オリンピックの成功に陰で大きく貢献したことを知り、大変喜ば



UCC 缶コーヒー 50周年 記念缶デザイン

しく思います。そしてコーヒーのルーツと日本におけるコーヒー文化の発展をたどることで世界の人々の営みを感じることができそうですね。オリンピック当時の世界のコーヒーの消費量ランキング31位だった日本は今や第3位です。その仕掛けは、缶コーヒーの発明！UCCのミルクコーヒーが世界初です。今年誕生50周年にあたるそうです。人々が、集まって話をしたり、情報交換したり、商談したり、愛を育んだり、友情を深めたりできる、カフェの役割は近代民主主義国家の成立・維持には欠かせない存在なのではないでしょうか?!?!

2020東京オリンピック

いよいよ後1年で2度目の東京オリンピックが開催されます。チケット入手のニュースもTVや新聞を賑わせていますが、観光業界のアルムナイ達は準備に、企画に、研修に、ミーティングに大奔走をしていることと存じます。我々の大先輩が見事に演じきった役割を胸に刻んで、めったに自国開催はないであろう「世界の祭典」を楽しみましょう！そしてもう一つ覚えていただきたいのは、おそらく来年の今頃、炎天下のオリンピック観戦に欠かせないコールドドリンク アイスコーヒー！缶コーヒーの普及は気軽にコーヒーを楽しむ生活になっています。自販機でどこでも！コンビニでいつでも！こんな国は世界にありませんね。（^^）～¥ 来年にはさらに多くの外国人が日本にやってきて、日本の文化に触れることでしょう。どこでもコーヒー！（どこでもドアみたいな）を楽しんでもらいたいです！

参考

立教観光クラブ賞 受賞者ご紹介のページ：上西大先輩の受賞ご挨拶より

池上英洋（いけがみ・ひでひろ）東京造形大学教授。1967年広島出身。専門はイタリアを中心とした西洋美術史・文化史

参照

wikipedia 長崎出島、コーヒーのルーツ等

ウェルカムナイト

2019年5月21日19:00より、日比谷松本楼セントポールズ会館にて、本年度第1回ウェルカムナイトが開催されました。ウェルカムナイトは、新入会員になった方を中心に、新入会員同士や既存会員との交流を深める親睦を目的とした会です。

午前中の荒天が続くのではないかと心配された日でしたが開始時刻には天候も落ち着き、無事開催することができ、新入会員9名を囲み会員11名の計20名の参加となりました。

戸井田和彦最高顧問の乾杯のご発声と共にスタート。まず、お一人ずつ自己紹介をしていただきました。仕事について・趣味について、またウェルカムナイトならではの経済人クラブ入会のきっかけ等お話いただきました。幅広い年代・業界の方に参加いただけたこともあり、親子で立教の縁がつながった、新たに同級や同クラブ・サークルの縁がつながっ

た等のお話も多くございました。

歓談の時間には、日比谷松本楼の名物カレーを含む美味しいコース料理をいただきながら、着席にて落ち着いてお話しされたり、話が盛り上がった際は席を移動されお話しされるなど積極的に交流を深めていただくことができました。交流も盛り上がり終了が惜しまれる中でしたが、井口一事務局長の閉会の辞、そして参加者全員での集合写真を撮影し、閉会となりました。

ウェルカムナイトをきっかけに、立教の縁



を深め友と交流し、今後のイベントにも参加いただけると嬉しく存じます。今後も種々イベントがございますので、ご参加をお待ちしております。

—小田切 理紗 H21法—

女子会

2019年6月18日 会員制青山サロンにて、女子会を開催いたしました。

今回は、株式会社ルピシア 代表取締役社長 森重かをり様を講師に招き“女性のキャリア論”の講演および懇親会をおこないました。

講演は、まず1400名・女性社員が9割のルピシア社について。同社の商人道“我々は、商人であれ。しなやかに変化していこう。『やってみる』が面白かった。”に基づき、国内外へ直接開拓・販売について、自社工場、海外進出、高品質な商品、ルピシア ポンマルシェや北海道ニセコの食の新事業、女性が活躍している社内の状況等についてお話いただきました。“お茶を中心に豊かな食文化を創造し世界で活躍する企業”の様々な取

り組みに、勉強になることが多くございました。また、同社のダーズリン春摘み紅茶2019も提供いただきお茶の世界の面白さ・深さに触れることもできました。

その後には、森重様の経歴について。大学でも体育会女子バスケットボール部にてバスケットボールに没頭されていたこと、大学院進学・研究の道へ進んだこと、2つの企業を2回ずつ経験されたこと等お話いただきました。森重様の“運と縁を大切に”しなやかに・前向きに・逃げずにやり抜く想い・経験が現在の成功に繋がっていると感じました。

懇親会では、様々な業種の女性同士で仕事での悩み・アイデアや私生活での楽しみなど女性ならではの幅広い話題で、美味しい食事をいただきな



がら交流を深めることが出来ました。

最後に、戸井田和彦最高顧問より更なる女性活躍を期待するお言葉をいただき、女性らしい“強く・しなやかに・楽しく”盛り上がった交流会は閉会いたしました。

—新美 智彦 H9産—

グルメ会

2019年7月17日新橋駅からほど近く、銀座あんどうにて、グルメ会が開催されました。

「旬の食材をおいしく、他のお店にはないお客様が食べたい食材がある限り提供する」をモットーに、ジャンルにとらわれない調理方法で最高の食材を最高のカタチで提供いただけるオーダーメイドの創作和食をいただきました。

まずは、皆様お好きなドリンクで乾杯。お料理

は、小松菜のおひたしにエビとブロッコリーのマヨネーズ和えの先付に始まり、カルビのように脂がのった牛タンのみそ漬け、旬の刺身5点盛り、ハンバーグデミグラスソース、カニの卵入り贅沢なカニチャーハン等、一つ一つの素材の良さはもちろんのこと、料理にもひと手間が加えられており、板長のこだわりが感じられる品々でした。

個室を押さえることができましたので、皆様のお

顔と名前がわかる距離での会員同士の交流も深めることもでき、和やかで充実した時間となりました。

グルメ会は、食事をとりながらということもあり、リラックスした雰囲気のなか、新たな出会い・交流が出来るイベントです。年二回ございますが様々趣向を凝らした、楽しい企画を計画しておりますので、ご参加をお待ちしております。

—新美 智彦 H9産—

日本茶ライフハック～日本茶でビジネスや人生のクオリティを高める!～

第1回：マインドフルネス・ビバレッジ?!

日本茶は代表的な日本文化として、また世界的なお茶ブームにおいて注目されています。国内でも日本茶カフェが増えるなど価値が見直されています。

現代経済人が心得ておきたい日本茶の知識や朝礼での小ネタになるような話を綴ってまいります。改めてどうぞよろしくお願いいたします。

日本茶を飲むと「ほっとする」と仰る方は老若男女問わず多いものです。

日本人のDNAに日本茶の味が刻まれているから? 慣れ親しんだ飲み物だから?

どちらも正しい理由に思えますが、ひとつ科学的な根拠をもつ理由があります。

それは日本茶に含まれる“テアニン”という成分です。

根から取り込んだ窒素成分から合成され、葉に蓄えられますが、日にあたることでカテキンに変わります。

そのため一定期間遮光して育てる抹茶や玉露、かぶせ茶に多く含まれます。

テアニンを摂取して40分くらいすると、リラックス状態のときにみられるα波が出現するという研究結果があります。また、緊張やうつなどストレスを和らげる効果も期待できます。この体感が「ほっとする」につながっているのではないのでしょうか。

欧米ではこういった機能的な効果を日本茶に期待しているむきもあり、JFOODO(日本食品海外プロモーションセンター)では“マインドフルネス・ビバレッジ”として日本茶を北米、とりわけ西海岸とニューヨークにプロモートしています。

プロフィール●満木葉子(みつきようこ) 98年文学部心理学科卒業。株式会社ねこぼんち代表取締役/一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事
☆日本茶応援サイト
『ENJOY! 日本茶』 www.nihoncha.org/



神奈川県高梨茶園にてお茶の収穫をする筆者

どうでしょう。ご興味をおもちいただけましたか? 日本のビジネスパーソンにこそ飲んでいただきたいですね!

立教経済人クラブ 第75回ゴルフ会

2019年7月27日、立教経済人クラブ第75回ゴルフ会が開催されました。令和になり初めてのゴルフ会は東京ゴルフ倶楽部です。毎年こちらでお世話になっておりましたが、昨年はコース改修で7月から9月まで閉場でしたので久しぶりの東京ゴルフ倶楽部です。数日前から台風が発生し、ちょうど当日に本州上陸という予報が!(>_<) たいへん心配でしたが、当日になってみれば良い天気です31度でした! 急な暑さに皆さんバテバテのところ、台風の影響なのか適度に風があり、なんとか無事にラウンド終了できました(^_^)汗だくですが(^_^)

改修でバンカー、特にフェアウェイにあるクロスバンカーが増えているとキャディさんが教えてくれました。以前もバンカーはいっぱいありましたが、さらに増えているとは 砲台グリーンがバンカーに囲まれている様なホールも多数あり、より戦略的なコースに変貌していました。フェアウェイ、グリー

ンはまさに緑の絨毯のようです! ラフは深く粘っこく近くに行かないとボールが見えません。正確なショットが要求されます。

さて、いよいよパーティー。和田成史最高顧問に乾杯のご発声を頂き、表彰式です。優勝はなんと、38-38の76! ハンディ9でネット67、大山浩一氏でした。もちろんベストスコアです(^_^) 和田最高顧問より優勝トロフィーと副賞のグルメチケットが授与されました。準優勝は40-42の82、ハンディ14でネット68、加藤陸夫氏でした。こちらも立派なスコアです(^_^) 和田最高顧問より準優勝トロフィーと副賞のグルメチケットが授与されました。3位以降の方も順に様々な景品をお選び頂きました。今回もグルメチケットから洋菓子や和菓子、ゴルフ用品等、様々なジャンルが集まりました。またお酒がかなり充実しております。私個人的にたいへん楽しみにしております。ご参加の皆様、ご協力誠に



ありがとうございます!

このゴルフ会は上手な方も参加されていますが、初心者の方もいっぱいいらっしゃいます。お気軽にご参加下さいね。次回は12月前半に開催予定です。どうぞ、お楽しみに(^_^)

—長倉 一裕 S59法—

第1回 理事会

2019年5月30日、本年度立教経済人クラブ第一回理事会が新橋の新橋亭(取締役会長: 呉 東富氏 S41 営)にて開催されました。

18時より、大塚裕司会長にご挨拶をいただいた後、井口一世事務局長の進行のもと、理事会を開始。総会に向けて、昨年度の事業報告・決算報告ならびに、事業計画・予算案を上程いたしました。時代の変化に合わせて当クラブホームページの更新など新しい事業内容などについてご報告させていただきました。各理事の皆様からご意見並びに

鋭いご指摘を賜り、上程内容について一部修正をすることでご承認いただきました。

その後懇親会へと移り今回も新橋亭 呉先輩のお計らいによりおいしい料理に舌鼓をうちました。諸先輩方の近況、各委員長からの近況報告を含めて、定刻21時に散会となりました。引き続き各委員会の活動にご支援とご指導をお願いいたします。

—品川 高穂 H8経—



新しく会員に なられた方々

(敬称略)

大嶋 勇樹 H16 法
赤坂総合法律事務所
経営者
〒107-0052 港区赤坂2-17-60 CREA赤坂4F
TEL: 03-3586-8211
FAX: 03-3586-8255
E-Mail: lawyer41167@xrj.biglobe.ne.jp
弁護士

加藤 鉄 S63 経
アース不動産鑑定事務所
代表
〒241-0816 横浜市旭区笹野台1丁目28-5
TEL: 045-361-7125
FAX: 045-361-7135
E-Mail: earth-kantei@hello.odn.ne.jp
不動産鑑定評価、不動産コンサルティング

亀山 淳一郎 H20 産
ジブラルタ生命保険(株)
東京西支社八王子第二営業所
〒192-0083 八王子市旭町10-3安嶋中央ビル6F
TEL: 042-642-3850
FAX: 042-642-3873
E-Mail: Junichiro.Kameyama@gib-life.co.jp
生命保険業

小林 節 H4 経
(株)フジタ
関東支店 総務部長
〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5
ソニックシティビル17F
TEL: 048-657-1630
FAX: 048-657-1492
E-Mail: takobayashi@fujita.co.jp
総合建設業

佐藤 文昭 S56 法
(株)リフコム
常務取締役
〒103-0007 中央区日本橋浜町 2-11-2
日本橋中央ビル 4 階
TEL: 03-5642-8701
FAX: 03-5642-8708
E-Mail: sato@lifcom.co.jp
印刷業

澤 円 H4 経
日本マイクロソフト(株)
マイクロソフトテクノロジーセンター 業務執行役員 センター長
〒108-0075 港区港南2-16-3
品川グランドセントラルタワー
TEL: 03-4535-2211
E-Mail: msawa@microsoft.com
ソフトウェア

座間 一郎 S56 営
(株)博報堂
常務執行役員
〒105-0023 港区芝浦 1-13-10
TEL: 03-5446-7210
E-Mail: ichiro.zama@tbwahakuhodo.co.jp
広告会社

杉山 恒太郎 S46 経
(株)ライトパブリシティ
代表取締役社長
〒104-0061 中央区銀座7-12-17
TEL: 03-3248-3334
FAX: 03-3248-3188
E-Mail: kotaro.sugiyama@lightpublicity.co.jp
広告・デザインの制作及びコンサル

鈴木 慶昭 H18 経
(株)栄工舎
取締役製造部長
〒170-0011 豊島区池袋本町4-45-13
TEL: 03-3984-5311
FAX: 03-3984-5374
製造業

長谷川 学 H25 数
(株)Japan Asset Management
取締役COO
〒100-0004 千代田区大手町2-6-21232区内
TEL: 03-3516-3711
FAX: 03-3516-3712
E-Mail: gaku.hasegawa@japan-am.info
金融業

町田 啓 H23 心
(株)レイシヤス
チーフ
〒104-0031 中央区京橋2丁目14-1
兼松ビルディング5階
E-Mail: k_machida@reicious.co.jp
不動産業

山口 十蘭 H25 社
ソニー生命保険(株)
ライフプランナー
〒220-8128 横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー28F
E-Mail: juuran_yamaguchi@sonylife.co.jp
金融業

会報委員会よりお知らせ

平素、立教経済人クラブ会報をお読み頂き誠にありがとうございます。

さて、デジタル化の世の波をしっかりと掴まえられる様、当クラブのホームページを刷新致しました。会員皆様のより良い触媒に成れる様に、会の活動報告、イベント集客を、よりタイムリーに発信してまいります。

同時に、Facebookもさらに活性化してまいります。是非Facebookにて「立教経済人クラブ」と検索の上ご参加頂けますと幸いです。

またそれに伴い、本年当クラブ総会でもご報告の通り「立教経済人クラブ会報」は9月及び3月の年2回の発行となります。

今後も様々な世代間の交流や、イベント参加のきっかけ等、会員の皆様のお役に立てる情報を発信できますよう努力して参ります。

最後になりましたが皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。
会報委員長 徳澄範光

運営委員会に参加しませんか？

経済人クラブの運営を手助けしてくれる有志を求めています。毎月1回の運営委員会に参加して頂き(本業優先で結構)、自分の役割を片手間にこなして頂くだけです。特別な資格、スキルは一切要りません。本業に影響が出るようなことはありません。必要なのは、経済人クラブの仲間と交流したいと思う気持ちだけかな!? 打合せ終了後の飲み会が楽しみかも？

2019年度 事業計画書

10月10日	ウェルカムナイト	新橋亭
10月23日	第2回ビジネスパーソンセミナー	立教大学
11月7日	理事会	新橋亭
11月13日	勉強会	未定
12月8日	第76回ゴルフ大会	茂原カントリークラブ
12月19日	クリスマスパーティー	未定
2月4日	新春賀詞交歓会	日比谷松本楼
2月	勉強会	未定
3月	グルメ会	未定

編集後記

早いものでもう9月! 実りの秋ですね。経済人クラブですから、数か月前、一年前、もっと以前から手掛けたお仕事の実る秋にしたいものです。日頃の努力が大切とは言うものの、やはり縁起を担ぎたいのも事実。そんな縁起物の世界にスーパースターがいます。

何事も見逃さない大きな目、何事も聞き逃さないピンと立った大きな耳、そして前足で幸運やお金を手招きするその姿は確かに王者の風格さえ感じさせます。その名はご存知「招き猫」です! 商売繁盛を願うお守りとしてはもちろん、文房具や食器といった日用品のモチーフとしても愛されています。一般的には「左手を挙げていると人を招く」「右手を挙げていると幸運やお金を招く」と言われていますが、最近では両手で招く欲張りな猫もいるようです。しかしスーパースターの招き猫、その起源は定かではないそうです。都内で発祥の地と言われているのは、豪徳寺(世田谷区)・自性院(新宿区)・今戸神社(台東区)の3ヶ所もあります。

信じるか信じないかは置いておいても、やっぱり縁起物。スポーツの秋ともいわれるこの時期です。ウォーキングと称してお寺を回るのも素敵な秋の過ごし方かもしれません。

最後に立教経済人クラブの皆様が実り多い秋をお迎えになりますよう、お祈りしています。

一村上 直人 H6立高一